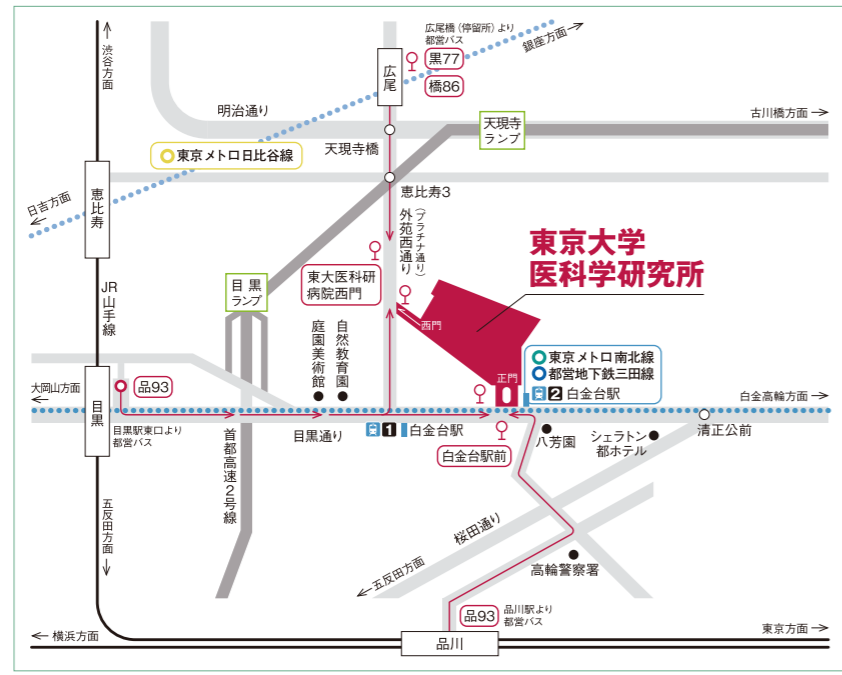


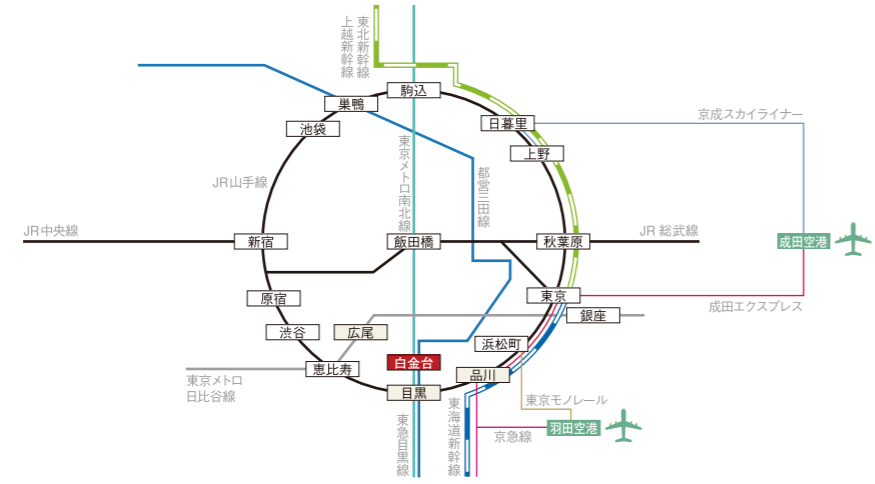
THE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE THE UNIVERSITY OF TOKYO



【電車をご利用の場合】
 白金台 ● 東京メトロ南北線・都営三田線「白金台駅」下車 2番出口(日吉坂方面出口)から歩いてすぐ
 目黒 ● JR山手線「目黒駅」下車 東口から徒歩15分

【バスをご利用の場合】
 目黒 ● JR山手線「目黒駅」東口から都バス(品93)大井競馬場行で、(白金台駅前)下車
 あるいは都バス(黒77)千駄ヶ谷駅前または(橋86)新橋駅前・東京タワー行で、(東大医科研病院西門)下車
 品川 ● JR「品川駅」から都バス(品93)目黒駅前行で、(白金台駅前)下車
 広尾 ● 東京メトロ日比谷線「広尾駅」そばの(広尾橋)から都バス(黒77)または(橋86)目黒駅前行で、(東大医科研病院西門)下車

The Institute of Medical Science, The University of Tokyo



<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/access/access/>

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/>



The Institute of Medical Science, The University of Tokyo
東京大学医科学研究所

〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1 TEL.03-3443-8111(代表)



東京大学医科学研究所 大学院教育



白金の森の中、都会の中心にあるとはとても思えないほどの閑静な環境。
ここは日本における医科学研究と先端医療開発の中心拠点の一つです。
恵まれた研究環境の中で教育と研究が行われています。

IMSUTで研鑽し、世界に飛び立ち、勝負する！
ようこそ、医科研一知の協創の世界拠点へ！

医科学の最先端研究と先進医療のトップレベル研究拠点である東京大学医科学研究所は、大学院学生に、世界を牽引する研究とその醍醐味を肌で感じることのできる学究環境を提供しているものと自負しています。ここでは、世界レベルの研究者らが、最新の設備と洗練された理論と技術を使って、がん、感染症、免疫、再生医療、トランスレーショナルリサーチ、ポストゲノム研究など、時代をリードするプロジェクトを意欲的に推進しています。そしてその中で、様々な本学研究科在籍の大学院学生が学び、研究科の垣根を越えて、研究、討論を展開し、切磋琢磨しながら研鑽に努めています。現代のグローバル化の潮流を受けて、若い大学院学生には柔軟性と開拓心を持ち続けつつ、研究者としての礎を培ってもらいたいと思います。本研究所で世界最先端研究を学び、若い知的好奇心を刺激し、研究への洞察力・推進力を蓄えて、常にグローバルな挑戦を志し、世界に向かって羽ばたくことを期待しています。



医科学研究所 第27代所長 村上 善則

医 科 研 か ら 世 界 に 発 信 す る



01 伝統と最先端の融合

1892年以來の伝統と先端性。
東京大学の附置研究所であり、独自性の高い医科学のための研究所です。



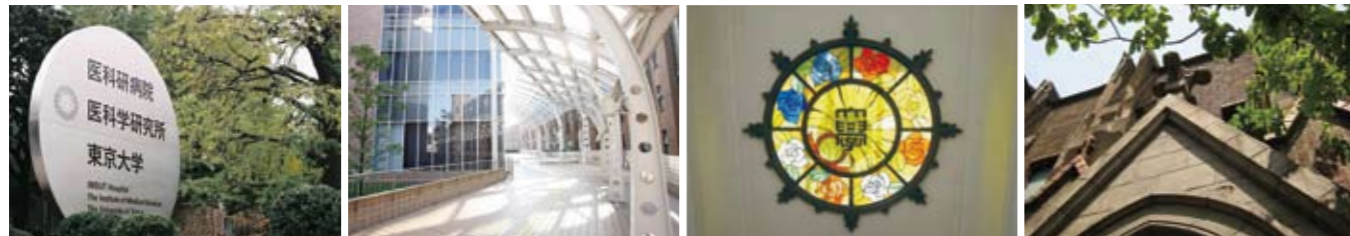
伝染病克服のために創設

東京大学医科学研究所の前身、大日本私立衛生会附属伝染病研究所は、当時最大の医療問題であった伝染病を克服する為に、ドイツで多大な研究成果を挙げた北里柴三郎博士を所長に招いて創立された民間の研究所でした。そこでは、伝染病の解明のための医学研究と、病に苦しむ人々を救うための先端的な医療提供、また伝染病予防の為に教育が行われていました。時代のニーズの変化により、研究対象を感染症だけでなく、がんやその他の難病へと広げ、1967年に伝染病研究所から医科学研究所へと改組されました。医科学研究所という名称には、東京大学の附置研究所として、医療応用を目指して自由な重点課題について研究を推進する、という意味合いが込められています。

【研究所の沿革】 ●明治25年／大日本私立衛生会附属伝染病研究所設立 ●明治32年／内務省所管の国立伝染病研究所となる ●明治39年／現在の港区白金台に新築移転 ●大正3年／文部省に移管 ●大正5年／東京帝国大学附置伝染病研究所となる ●昭和22年／東京帝国大学は東京大学となる ●昭和42年／伝染病研究所から医科学研究所に改組 ●平成12年／23研究部を基幹3部門に改組 ●平成13年／近代医科学記念館開設 ●平成15年／総合研究棟、新病院棟竣工 ●平成16年／国立大学法人法により国立大学法人東京大学医科学研究所となる

附属病院を持つわが国最大規模の医科学の研究所

白金の高台にあるキャンパスには、緑に囲まれ恵まれた環境の中に多くの建物が立ち、1000人近くの教職員、ポストドクトラルフェロー、大学院学生らが、医科学研究と先端医療開発、その推進に力を注いでいます。医科学研究所は、常に人々の健康にとって重要な課題に挑戦し、時代をリードする研究成果を上げてきました。本研究所の大きな特徴は、附属病院を持つわが国最大規模の医科学の研究所であることにあり、このことが「ベンチからベッドサイドまで」、「基礎研究から応用まで」、の医科学研究を展開する大きなアドバンテージになっています。現在、感染症やがんに加えて、免疫、ゲノム、発生工学、再生医療などに研究課題を広げ、規模も大きくなっています。そして、これらの医科学研究の成果を臨床に繋げるトランスレーショナルリサーチを推進すること、ゲノム情報を基盤とするオーダーメイド医療を実践することを、研究所の使命として掲げています。ここでは「個人の自由な発想に基づく独創的な研究」、「目的志向型の研究」が両輪として進められ、世界をリードする研究、医療、及びそれらと密着した教育が展開されています。



02 研究部門とセンター

3つの基幹研究部門と特定のミッションを持った研究センター群。
構成する分野単位で特色ある研究を進めています。



研究部門

● 感染・免疫部門

○ウイルス感染分野 ○感染遺伝学分野 ○炎症免疫学分野 ○ウイルス病態制御分野

● 癌・細胞増殖部門

○分子発癌分野 ○人癌病遺伝子分野 ○腫瘍抑制分野 ○癌防御シグナル分野

● 基礎医科学部門

○分子細胞情報分野 ○神経ネットワーク分野 ○分子シグナル制御分野

附属研究施設

● ヒトゲノム解析センター

○ゲノムデータベース分野 ○DNA情報解析分野 ○ゲノム医科学分野
○シークエンス技術開発分野 ○シークエンスデータ情報処理分野
○機能解析イン・シリコ分野 ○公共政策研究分野

● システム疾患モデル研究センター

○発生工学研究分野 ○自然免疫研究分野 ○遺伝子操作動物研究分野
○生殖システム研究分野 ○システムズバイオロジー研究分野 ○先端分子遺伝学分野

● 先端医療研究センター

○分子療法分野 ○細胞療法分野 ○感染症分野 ○臓器細胞工学分野
○臨床ゲノム腫瘍学分野 ○先端がん治療分野 ○先端医療開発推進分野
○先端ゲノム医学分野 ○遺伝子治療開発分野

● 感染症国際研究センター

○高病原性感染症系 ○感染制御系 ・ウイルス学分野 ・細菌学分野
○病原微生物資源室

● 幹細胞治療研究センター

○幹細胞治療分野 ・ステムセルバンク ・FACSコアラボラトリー
○幹細胞プロセッシング分野 ○幹細胞移植分野 ○幹細胞シグナル制御分野
○幹細胞ダイナミクス解析分野 ○幹細胞セロミクス分野

● 実験動物研究施設

● 奄美病害動物研究施設

● 遺伝子解析施設

● 疾患プロテオミクスラボラトリー

● 国際粘膜ワクチン開発研究センター

● 遺伝子・細胞治療センター

● ヘルスインテリジェンスセンター

● アジア感染症研究拠点

寄付研究部門・社会連携研究部門

○再生基礎医科学国際研究拠点寄付研究部門 ○RNA医科学社会連携研究部門
○システム免疫学社会連携研究部門 ○先端的再生医療社会連携研究部門
○国際先端医療社会連携研究部門 ○ALA先端医療学社会連携研究部門
○先端ゲノム医療の基盤研究寄付研究部門

医科学研究所附属病院

○先端診療部 ○血液腫瘍内科 ○感染免疫内科 ○アレルギー免疫科 ○放射線科
○ゲノム診療部 ○病理診断科 ○外科 ○麻酔科 ○関節外科 ○脳腫瘍外科
○緩和医療科 ○セルプロセッシング・輸血部 ○検査部 ○TR・治験センター
○抗体・ワクチンセンター ○治療ベクター開発センター ○エイズワクチン開発担当

研究支援組織

○発生工学研究支援室 ○病理組織サービス室 ○顕微鏡コアラボラトリー
○スーパーコンピュータ ○動物センター ○安全衛生管理室 ○研究倫理支援室
○図書室 ○ITサービス室 ○写真室 ○遺伝子組換え・微生物研究支援室

医科学研究所の機構組織

医科学研究所は、感染・免疫部門、癌・細胞増殖部門、基礎医科学部門の3つの基幹研究部門と、ヒトゲノム解析センター、システム疾患モデル研究センター、先端医療研究センター、感染症国際研究センター、幹細胞治療研究センター、国際粘膜ワクチン開発研究センター等の目的指向型センターや施設、加えて寄付研究部門・社会連携研究部門等で構成されています。各部門・センターは、各々複数の分野から構成されており、分野単位で特色ある研究が推進されています。また、コアラボラトリーや共通施設、支援室などが設置され、研究のサポート体制が整えられています。



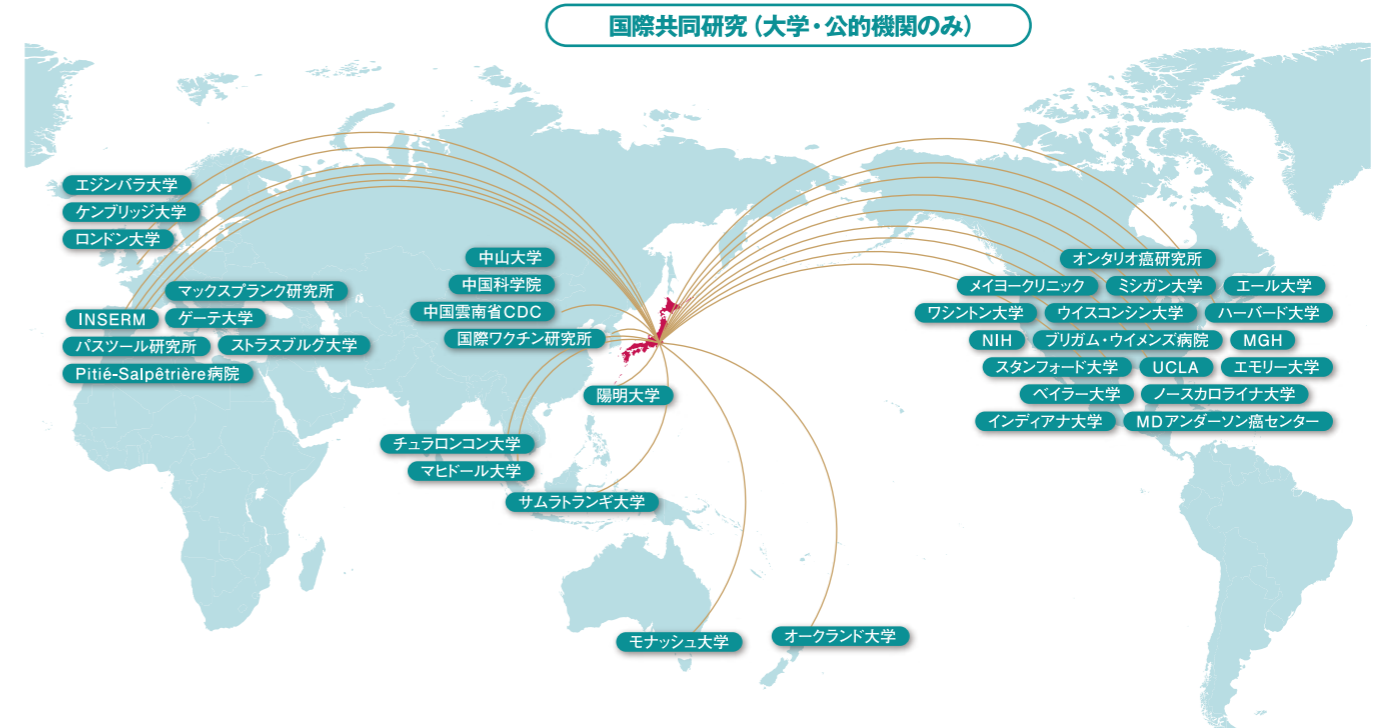
03 研究プロジェクト

様々な研究分野の研究者が白金キャンパスに集い、「自由な発想に基づく独創的な研究」と「目的志向型の研究」を展開しています。

	<p>1. ヒトゲノムを用いた医療開発プロジェクト</p> <p>ヒトゲノム情報解析に特化したスーパーコンピュータシステムを用いて、個人個人のゲノム、がん細胞のゲノム、システム生物学などの解析を行っています。病気の罹り易さや、薬の効き易さに関するゲノム情報など、個別化医療に役立つ成果をあげています。他にも遺伝子発現にかかわるゲノム領域データベースなどを提供しています。</p>	
	<p>2. 感染症克服のための研究プロジェクト</p> <p>インフルエンザウイルスの増殖・伝播に関する研究、HIV感染に関する研究、また、麻疹ウイルスや単純ヘルペスウイルスの感染機構、宿主応答に関する研究を行っています。新規ワクチンの開発や抗ウイルス薬耐性に関する研究も実施しています。細菌の感染機構や宿主応答に関する研究も行っています。</p>	
	<p>3. 幹細胞の基礎研究と応用研究</p> <p>造血幹細胞における冬眠シグナル機構の解明や、リンパ球への分化を制御するシグナルの解明、疾患特異的なiPS細胞の樹立とそれらを用いた病態の解明・治療開発研究などを行っています。幹細胞の臨床応用では、京都大学と共同でiPS技術を活用した血小板の作製の臨床開発などを推進しています。</p>	
	<p>4. がん細胞の増殖、浸潤、転移メカニズム解明研究</p> <p>がん化の鍵となる分子や、がんの増殖、浸潤、転移など、がんの悪性化に関わる分子の機能を、分子生物学的アプローチ、遺伝学的手法、プロテオミクス、モデル動物を用いた解析に加えて、数学を用いたシミュレーション法等を駆逐することで解明し、その成果を臨床応用することを目指しています。</p>	
	<p>5. ヒト免疫の獲得・維持機構の解明研究</p> <p>病原体侵入や炎症に対する制御機構の解明や、自然免疫ネットワークの解明などの研究を行っています。国際粘膜ワクチン開発研究センターでは、腸内フローラや自然免疫細胞を介した免疫制御、さらには次世代型のワクチン生産・送達システムを利用した粘膜ワクチンの開発を展開しています。</p>	
	<p>6. 医療開発のモデル動物作製と疾患メカニズム研究</p> <p>様々な疾患のモデル動物作製を通じて、疾患の発症・進展メカニズムを明らかにする研究を進めています。共同研究を含めて年間20系統あまりの遺伝子改変マウスの作製・解析を行い、個体レベルでの遺伝子機能解明の発展に貢献しています。</p>	
	<p>7. 先端医療のトランスレーショナルリサーチ</p> <p>がん治療用の遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いた脳腫瘍の臨床試験実施の他、様々な抗がん機能を付加した治療用ウイルスの開発、新規のがん治療用ワクシニアウイルスの開発研究、腫瘍細胞の活性化シグナルを標的とする分子標的治療薬開発などを行っています。</p>	
	<p>8. 基礎医学研究</p> <p>医科学の発展に貢献するため、オリジナルな基礎生命科学研究を展開しています。シグナル伝達機構などを中心に、分子レベル、細胞レベルとそのネットワーク、個体レベルまでの多彩な研究を進めています。</p>	

04 グローバルな研究・教育拠点

国際的研究活動と学術国際交流を通じて、医科学の発展と、次世代を担う若手研究者の育成に貢献しています。



国際共同研究の推進とグローバル教育の拠点形成

医科学研究所は、文部科学省のグローバルCOEプログラムに採択されるなど、その国際的な研究・教育拠点を強化して来ました。世界15カ国以上、30以上の大学・公的機関と共同研究を推進し、科学の発展と人材育成に努めています。

国際的研究活動

本研究所では、多くの研究室が海外研究機関との共同研究を進めています。感染症領域では、海外拠点として中国北京市の中国科学院微生物研究所及び生物物理研究所に日中連携研究室を設置し、本研究所の研究者が2005年度から常駐して日中共同研究を推進しています。その他、ハーバード大学(アメリカ)、スタンフォード大学(アメリカ)、シカゴ大学医学部(アメリカ)、ケンブリッジ大学(イギリス)、バスツール研究所(フランス)、カロリンスカ研究所(スウェーデン)、中国農業科学院ハルビン獣医研究所等と国際的な共同研究を行い、世界最高レベルの研究を展開しています。また、2015年には研究の更なる国際展開を目指して、米国での産学連携の拠点となる東京大学ニューヨークオフィスを設置しました。



国際学術交流

本研究所は、フランスバスツール研究所、リヨン大学、シカゴ大学医学部、中国科学院等と国際学術交流協定を結び、学術分野での国際連携と人的交流に努めています。東アジア6研究機関で共同開催している「東アジアシンポジウム」や、11の生命系国立大学附属研究所が協力して開催する「研究所ネットワーク国際シンポジウム」に毎年参加し、大学院学生や若手研究者が積極的に発表を行っています。また海外の国際学会での発表や、海外共同研究施設への短期渡航を推奨・支援しています。これらの活動は若手研究者の育成に寄与するだけでなく、新たな研究アイデアの創生や国際共同研究の発展に役立っています。



05 大学院教育

社会で活躍する研究者を育てる。
それが医科学研究所の教育ポリシーです。



世界で活躍する研究者を育てるための豊かな教育環境

大学院の各専攻カリキュラムに加えて、医科学研究所内で開かれるシンポジウム、数多くの多様な教育セミナー、技術室セミナー、スパコン講習会、非医師大学院学生のための病院見学実習など、付加的なカリキュラムを提供し、幅広い知識をもった研究者を育てます。海外で活躍する研究者によるセミナーが数多く行われ、英語で発表する訓練が行われています。これらにより英語でコミュニケーション能力を養い、博士後期課程の学生には海外での学会発表を奨励しています。

＜教育プログラム＞

教育セミナー

大学院学生を対象とした毎週のセミナーシリーズである大学院セミナーは、年ごとにテーマを決めて全国から第一線の研究者を招待して開催しています。他にも、国内外から訪れる研究者を中心とする学友会セミナー、企業や政府機関などで活躍する方々を講師として招いてのキャリアパス支援セミナーなど、多様な教育セミナーを開催しています。

非医師大学院学生のための病院見学実習

研究所に付属した病院をもつ医科学研究所ならではのプログラムです。少人数で医学概論や医療倫理、看護・薬物療法・橋渡し研究・臨床心理などの講習を受け、実際に病院内で行われている検査、治療、看護、先端医療開発を体験します。

＜学生生活支援＞

経済的支援

大学による学費免除制度の他、博士課程研究遂行協力制度、大学院・研究所によるリサーチアシスタント制度、ティーチングアシスタント制度などの経済的支援制度があります。博士課程研究遂行協力制度では、優秀な大学院学生の学業を奨励し、大学全体の研究レベル向上のために必要な研究業務を委嘱します。リサーチアシスタント制度では、特定の研究プロジェクトを効果的に推進するために必要な研究業務を委嘱します。ティーチングアシスタント制度では、優秀な大学院学生に対し、実験、実習、演習等の教育補助業務を委嘱します。これらの対価として報酬が支給されます。

なんでも相談室

所内に開設された相談室で、専門の相談員が予約不要で相談者を受け入れています。人間関係に関する悩み、学業の相談、心理相談、進路・就職に関する相談、法律的な問題、恋愛、健康、発達障害、学内外の情報検索…など、何でも相談することができます。問題解決に向けての提案を聞いたり、学内外の適切な相談施設への紹介を受けることができます。相談室に行くのが難しい方や、直接相談に行くのは気が引けるという方は、電話でも相談できます。

＜キャリアパス支援＞

就職支援・留学支援

キャリアパス支援セミナー等で、企業関係者から生の声を聞くことができます。また、ホームカミングセミナーなどで先輩たちの体験談を聞くことも可能です。国際学会・シンポジウムへの参加、共同研究先への短期派遣等の機会を積極的に利用して、自分の希望に合った留学先を見つけることができます。

大学院学生表彰

優れた成果を挙げた大学院学生に対して、「最優秀論文賞」や「優秀論文賞」を授与し表彰しています。その他、毎年創立記念シンポジウムに合わせて開催される研究成果発表会で、発表されたポスターの中から優れたポスターに対して、「創立記念ベストポスター賞」を授与し表彰しています。



アドミッション・ポリシー 医科学研究所で大学院生活を送るためには

医科学研究所には多様な領域の大学院学生が集っています。
出身大学も様々で、背景や専門、年齢に関係なく自由な雰囲気、勉学・研究に励んでいます。

医科学研究所は独自の大学院組織を持たず、各分野の教員が東京大学の様々な大学院研究科の協力教員として大学院教育を担当しています。従って、大学院学生として希望する教員の研究指導を受けるためには、その教員が所属する大学院・専攻を受験し入学する必要があります。各教員が所属する大学院組織は、「所属教員一覧」(下記URL)で調べることができます。各教員の研究内容は、ホームページのほか、毎年春に開催される大学院進学説明会で知ることができます。また、希望する教員に直接メールを送って問い合わせたり、予めアポイントメントをとって研究室を見学したりすることで、詳しい研究内容や研究室の雰囲気を知ることができます。受験すべき研究科および受け入れの確認のために、受験前に希望する教員と連絡を取ることを推奨しています。

所属教員一覧 ▶ <http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/education/staff/>

医科学研究所で研究・教育を受けることができる大学院は8つの研究科

研究科 教育・研究の目的

▶ http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/admission/link_dep/

● 新領域創成科学研究科

本研究科を構成する基礎科学、生命科学、環境学の各研究系ならびにメディカル情報生命専攻に共通する特徴は、既存の個別学問分野から派生する未開拓の領域を研究・教育の対象とし、人類が解決を迫られている課題に取り組んでいることです。

▶ <http://www.k.u-tokyo.ac.jp/>

● 医学系研究科

本研究科は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的としています。

▶ <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/>

● 理学系研究科

◎自然科学を中心とする諸分野の研究の第一線で開拓的研究を行う研究者、◎国際的・学際的な研究プロジェクト等の中核となる研究者、◎産業界の要請及び諸研究・現業機関等からの需要に応じた創意ある研究開発者、の養成

▶ <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/>

● 農学生命科学研究科

本研究科は、農学の基盤を形成する諸科学に関する世界水準の教育、研究を進め、人類が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門性豊かな人材を養成することを目的としています。

▶ <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/>

● 薬学系研究科

本研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的としています。

▶ <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/>

● 情報理工学系研究科

本研究科は、東京大学における情報科学技術に関する英知を結集し、21世紀へ向けた情報理工学に関する先進的大学院教育・研究の拠点となることを目指し、さらに教育・研究の成果を社会へ還元することのできる開かれた研究科であることを目指しています。

▶ <http://www.i.u-tokyo.ac.jp/>

● 工学系研究科

工学とその活用に係わる研究、開発、計画、設計、生産、経営、政策提案などを、責任を持って担うことのできる人材を育成し、未踏分野の開拓や新たな技術革新に繋がる研究へと果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

▶ <http://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/>

● 学際情報学府

学際情報学府は、学生が所属する「教育組織」です。学際性を特色とする情報学についての幅広い視野と、各学問分野での高度な専門的能力を身に付けた人材を持続的に社会に提供することを目指しています。情報に関する多彩な学問を修得するための「卓越の場所」です。

▶ <http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/>

大学院進学説明会

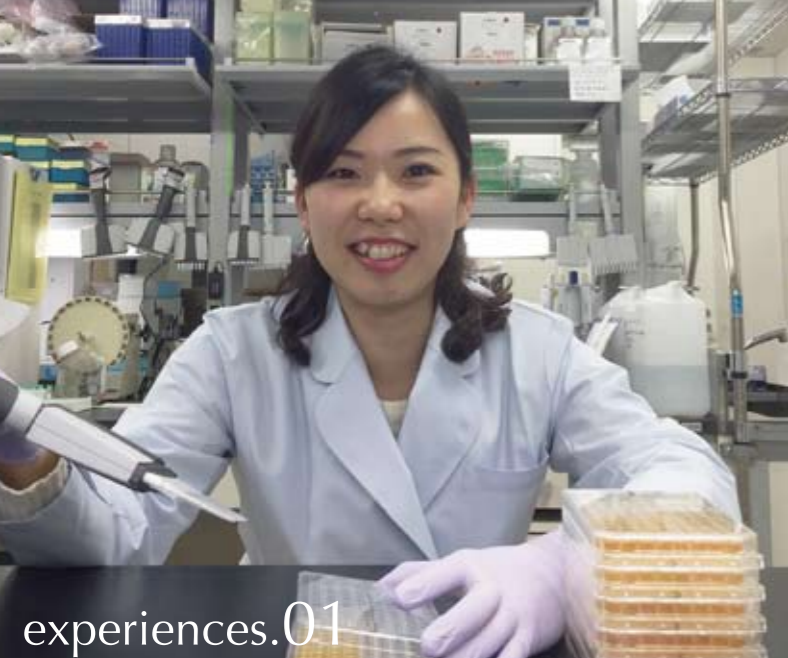
大学院博士課程・修士課程への入学・進学を考えている方々を対象に、毎年4月に大学院進学説明会を開催しています。各教員が研究内容を紹介し、所属する大学院研究科・専攻について説明します。説明会の終了後に開催される懇親会(会費無料)に参加すれば、様々な教員と直接話をする事ができます。日程等の詳細は、医科学研究所ホームページ内「大学院進学説明会」のページをご覧ください。



入試情報

入試に関する情報は各専攻毎に異なります。受験を希望する専攻の最新の入試情報を参照してください。

入試情報 ▶ <http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/admission/info/>



グローバルリーダーを育てる場所

桑原 朋子

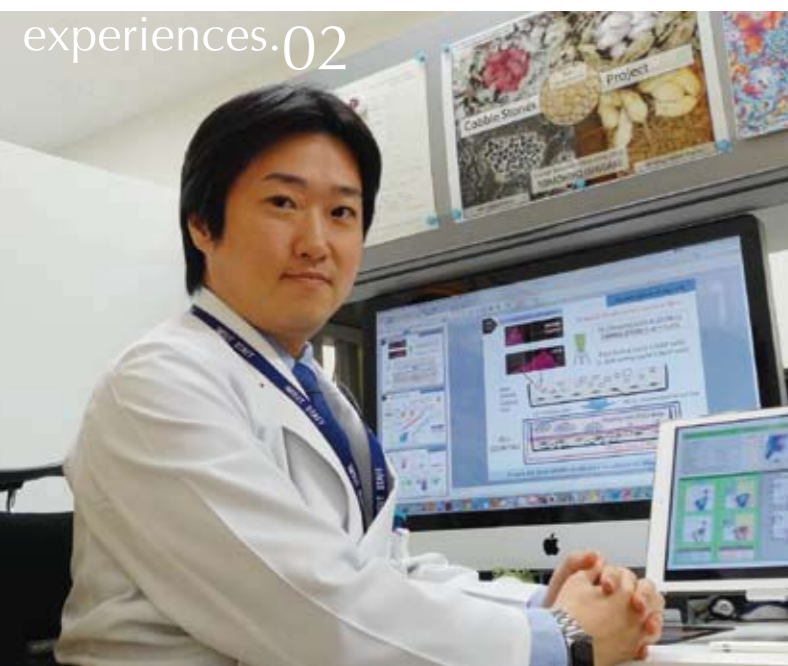
国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター 研究員/元ウイルス感染分野

東京大学医科学研究所は、日本にいながら世界レベルの研究に触れると
ころです。研究に打ち込む環境が整っており、世界中の著名な先生方の講演
も頻繁に行われます。また、東京大学の大学院には、グローバルリーダーの
養成を目的とした多くの奨学金プログラムが存在し、私はその一環として
WHOで半年間のインターンシップをする機会に恵まれました。医科研での4
年間は、何度も壁にぶつかり研究の厳しさを思い知らされるものでした。それ
と同時に、研究の楽しさや、自分の可能性を再発見する機会でもありました。
親身になって指導し支えてくださった教授、研究室のスタッフの方々、そして
友人達に心から感謝しています。これからは、医科研での経験から学んだ
ことを活かし、少しでも社会に貢献できる人間になっていければと思います。

experiences.01

卒業生の体験談

experiences.02



Physician Scientistを目指して

石垣 知寛

医科学研究所附属病院 検査部 助教/元幹細胞治療分野

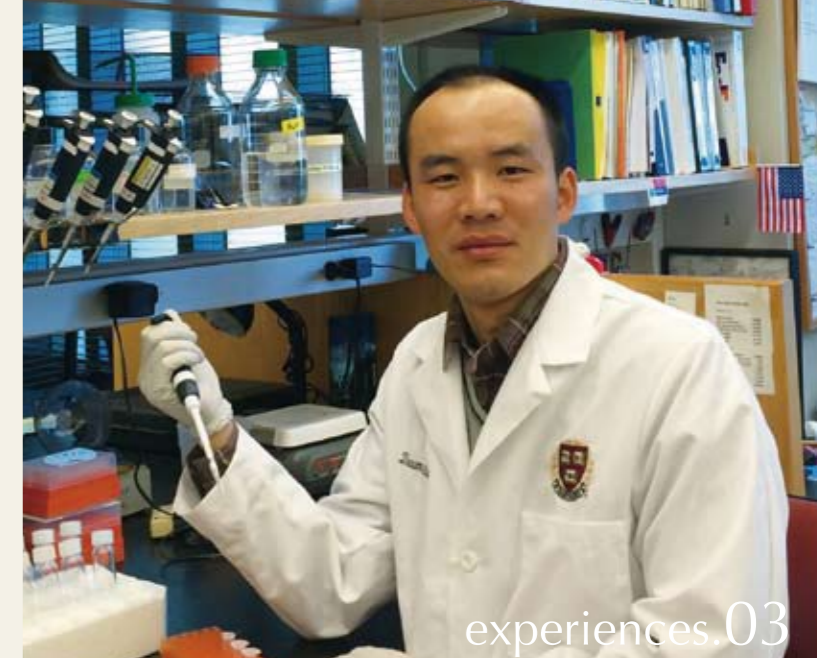
私はクリニカルリサーチフェローとして博士課程4年間で、修了後は特別研究員
(日本学術振興会PD)として医科研で過ごしました。医科研には将来的な臨床
医学への応用を目指して最先端の基礎研究を進めている研究者が多く、所外から
も第一線研究者が授業や講演に訪れ、様々な刺激にあふれています。私自身も
そのような環境下で刺激されPhysician Scientistを目指し、基礎研究室と附属
病院(病棟・臨床検査室)を行き来し、様々な先生方やスタッフの方々にお世話に
なりながら、ベンチとベッドを繋げるべく研究を行なってきました。次世代の臨床
医学を展開するには、基礎研究の理解と経験が必要不可欠です。また、外環境
からの刺激が細胞の分化や成熟に影響を与えるのと同じく、研究者にとっても
環境は大事かもしれません。自分に適した環境を見つけ、明るくのびのびと挫
けず意欲的に研究を継続する事が何よりも重要ですが、私は日本を代表する
研究所の1つである医科研で大学院生活を送れて本当によかったと思っています。

長年の夢に一步近づけた場所

劉 卓明

ハーバード大学医学部 博士研究員/元ウイルス病態制御分野

私は中国出身で、元は生物学を学んでいました。しかし勉強を進める中、微
生物の中でも最小のもの、すなわちウイルスに興味を持つようになり、中国
の大学を卒業後、医科研でヘルペスウイルスの研究を始めました。私にとって
医科研は、世界トップクラスの科学者と学生が集まり、自分の視野を広げて
くれた場所、他者から学ぶことの素晴らしさを教えてくれた場所でした。そして
何より、研究成果を臨床の場に生かすことで、世界をより美しいものにできる
チャンスがある場所でした。研究の合間には、仲間たちとテニスコートで汗を
流し、卓球やソフトボール、春にはお花見も楽しみました。この充実した5年
間を経て、私は今、ハーバード大学医学部で、ウイルス研究を通じて世界を
よりよいものにするという長年の夢の実現に向け、邁進しています。医科研
での研究生活があったからこそ、今の私があるのです。皆さんと医科研でお
会い出来ることを、楽しみにしています。



experiences.03

卒業生の体験談

experiences.04



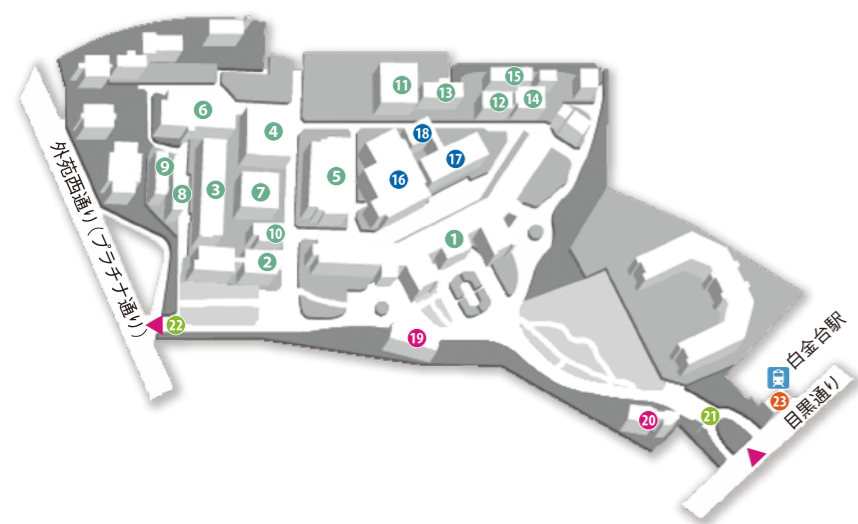
人のつながりが広がる場所

デラワリ ミナ

第一三共株式会社 研究開発本部 副主任研究員/元癌細胞シグナル研究分野

私は博士課程の4年間で医科研で過ごし、その後製薬会社に研究者として
就職、現在は会社の制度を利用してハーバード大学でポストドクをしています。
医科研には多くの魅力があります。コアファシリティーが充実しており、質の
高い研究をサポートしてくれること、多彩な分野からトップレベルの研究室
が集まっており、自分の専門分野以外の研究にも触れられること、一年を通
して様々な行事があり、それらを通じて幅広い人脈を作ることができること。
海外に出ても「医科研」をキーワードに人の繋がりが増えていき、改めてトップ
レベルの研究所であることを実感しています。第一線で活躍する先輩方や
モチベーションの高い仲間と囲まれての研究生活はとても充実したもので
あり、卒業した今でも医科研時代の同期の活躍に刺激を受けています。もし
もう一度大学院を選ぶとしても、私は間違いなく医科研を選びます。

キャンパスマップ



- ① 1号館
- ② 2号館
- ③ 3号館
- ④ 4号館
- ⑤ 総合研究棟
- ⑥ ヒトゲノム解析センター
- ⑦ 動物センター
- ⑧ 旧ゲノム解析センター
- ⑨ クレストホール
- ⑩ アムジェンホール
- ⑪ 合同ラボ棟
- ⑫ 治療ベクター開発室
- ⑬ 研究棟別館
- ⑭ 臨床研究A棟
- ⑮ 臨床研究B棟
- ⑯ 附属病院A棟(病院棟)
- ⑰ 附属病院B棟
- ⑱ 附属病院C棟
- ⑲ 白金ホール
- ⑳ 近代医科学記念館
- ㉑ 正門
- ㉒ 西門
- ㉓ 白金台駅(2番出口)
- 東京メトロ南北線
- 都営地下鉄三田線



campus event : キャンパスでは、研究の手を休めて四季折々のイベントを開催。大学院学生たちのくつろぎの一時となっています。

